

# 倉戸山

1169m

花の名所、奥多摩湖。その湖畔のかわいい頂へ

鷹ノ巣山から奥多摩湖へ下る榎ノ木尾根上にある倉戸山は、湖岸に最も近いピークである。奥多摩湖対岸からは、三角形の端正な姿がくつきり眺められる。湖岸の登山口から3時間もあれば登下降できるため、気軽なハイキングコースとして脚光を浴びているが、ここでは奥多摩保全林と合わせて歩いてみよう。湖岸の斜面に広がる保全林には約1万本ものサクラが植えられており、4月中旬の満開時には、多くの人でにぎわう。

奥多摩湖北岸を走るバスを女ノ湯で下車し、バスでくぐってきたトンネルのわきに



倉戸山温泉にまつた温泉神社

ある道標に従って湖岸の道を進む。まもなく分岐に出会い、左手の斜面から尾根に取り付く。ひと登りで尾根上に出たら、左折してアカマツの多い尾根道を北上する。

着実に高度をかせぐと、ゆるやかな道となり、周囲にはツツシヤアセビなどの灌木が目立つ。再び急坂が続く、植林帯をジグザグに登ると、峰谷橋に下る尾根と合流する。ここから山頂までは尾根上の一本道となるが、しばらくは樹林帯のなかの急坂が続いている。

スギやヒノキの植林だった右手の斜面はやがて広葉樹に覆われるようになる。このあたりは新緑の春が美しい。ようやく傾斜がゆるやかになって、スズタケに縁取られた道をたどれば、倉戸山の山頂も近い。

登り着いた倉戸山の山頂からは、南面に奥多摩湖の対岸の三頭山や御前山の山頂部が見える。広々とした山頂の一角に腰を下ろし、ゆつくりとお弁当を広げたい。

下りは温泉神社をめざし、東南に延びて

いる尾根をたどろう。急坂をひと下りすると、クリ、ミズナラ、コナラなどの雑木林に囲まれた広い尾根に出て、快調に下っていく。やがて尾根からはずれて、左手斜面をジグザグに下るようになるが、まもなく樹間に奥多摩湖の湖面が見えてくる。

右手に温泉神社を見て、簡易舗装された道を下っていくと、階段下で車道に出合う。これを左に進むと、道標はないが、右手の

ガードレール脇から大麥代展望台への道が続いている。この山腹道をたどって植林地を抜けると、左手の斜面上に大麥代展望台の建物が見える。建物の裏手から登りきみに進み、分岐に出て、ここから右に下って大麥代のバス停に出ることもできるが、もう少し山腹の道をたどってから、花木の多い保全林のなかを下り、奥多摩湖のバス停をめざそう。(紀村)



サクラの開花期にはゆつくり歩きたい奥多摩保全林

●登山道期

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
---	---	---	---	---	---	---	---	---	----	----	----

●登山シーズン

4月中旬のサクラの開花期がベストだが、倉戸山だけでなく、尾根筋にツツシが咲く5、6月もよい。

●参考コースタイム

JR青梅線奥多摩駅(西東京バス25分)女ノ湯(1時間30分)倉戸山(50分)温泉神社(10分)大麥代展望台(1時間)奥多摩湖(西東京バス20分)奥多摩駅

●ワンポイントアドバイス

◇行きの奥多摩駅発バスは、奥多摩湖・日原行き以外のバスはすべて利用できる。

◇保全林にはオオシマザクラやヤマザクラ、ソメイヨシノのほか、ドリゲンツツシ、ヤブツバキ、ヤマブキなど、花木が多く植えられている。小さな子ども連れなどの場合は、保全林のみを目的としてもいいだろう。

◇女ノ湯バス停で下車すると、道路の向かい側に鶴ノ湯温泉の源泉取水口がある。鶴ノ湯の温泉宿は、昭和32年に完成した小河内ダム建設によって水没してしまったが、8軒もの宿がある湯治場として近在に知られ、武田信玄の隠し湯のひとつともいわれていた。今ではこの取水口から奥多摩湖畔の数軒の宿に温泉が供給されているほか、湖畔の売店でポリタンク入りの温泉を販売。鶴ノ湯の名は傷ついたツルが、この湯をあびていたことによる。

◇奥多摩湖のバス停近くに、奥多摩水と緑の

ふれあい館がある。ダムに沈んだ小河内村の生活用具(国指定有形民俗文化財)とともに奥多摩湖の歴史を紹介するほか、水道に関する資料も展示している。9時30分、17時、水曜休。無料。

◇小河内の郷土芸能は、例年9月15日に行なわれる小河内神社の例祭で披露される。伝統的な獅子舞のほか、女装した男性が優雅に演じる鹿島踊(国指定重要無形民俗文化財)もユニーク。

●照会先 奥多摩町役場 ☎0428・83・2

1111 西東京バス水川車庫 ☎0428・83・2126

●2万5000円「奥多摩湖」

